

第13回菱肥会総会開催

10月25日、3年に一度の第13回菱肥会全国連合会総会が経団連会館国際会議場（東京・大手町）で開催された。菱肥会会員に加え、賛助会員メーカー、業界関係者、三菱商事等、合計で全国から約200名の参加となった。三菱商事（株）汎用化学品第二本部長中山真一氏の冒頭挨拶では、東日本大震災にも触れながら、“新たな発想を取り入れ、菱肥会活動を通じ日本農業の復興・再生へのお手伝いをしたい”と力強い話があり、



引き続き菱肥会会長の三菱商事（株）肥料ユニットマネジャー本多泰氏からは、昭和36年三菱会に始まる菱肥会の歴史に触れながら、原点に立ち戻って日本農業発展に協力したいとの挨拶があった。そして菱肥会全国連合会理事長に再選出された、豊田肥料（株）豊田富士雄社長による理事長挨拶では、“次の3年に6次産業化進展も予想される中で、肥料を通じ伝統の地場産業である農業への貢献は、地方活性化の観点からも重要”とご自身の経験も踏まえお話し頂き会場は愈々熱気を帯び始めた。

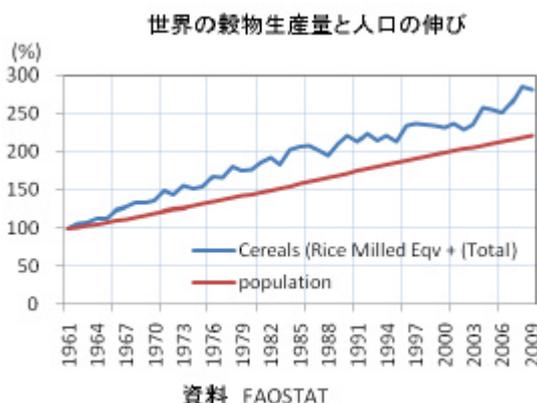
事業報告に次いで会員褒賞は、東部菱肥会理事長（株）ネイグル新潟五十嵐社長が86社の受賞会社を代表して受け取られ、“困難な農業環境ではあるが、技術サービスの拡充を図り、なでしこジャパンに倣って最後まで諦めない”旨の力強い謝辞が述べられた。経済産業省からのご祝辞に加え、来賓として農林水産省生産局農産部技術普及課生産資材対策室の小川祥直室長もご挨拶され、“食と農林漁業の再生に向けた基本方針と行動計画が内定した。肥料を含めた農業の生産コスト削減に取り組まざるを得ないが、何が必要か、すべきか農業現場に近い肥料商の視点から忌憚のないご意見を出して欲しい”と要望があった。

特別講演 「世界の農業・食糧問題と日本農業の新たな役割」

（株）農林中金総合研究所基礎研究部 主任研究員 阮 蔚（リアン ウエイ）氏

特別講演で阮氏からは、「世界の農業・食糧問題と日本農業の新たな役割」と題して、1. 世界食糧問題の矛盾とその背景 供給過剰と地域的不足、2. 今後の見通し 需要の増加と高い自給率維持の必要性、3. 日本農業の新たな役割について、ポイントを自らの経験とデータ・図表で解説していただいた。

阮氏は、世界各国の食糧需給問題、農産物貿易について研究しこの30年世界の食糧は供給過剰だったとデータで示した。世界の穀物生産は1961年の約8億トンから2009年の22.6億トンまで2.8倍増（年平均伸び率2.2%）、一方、世界の人口は1961年の約30.8億人から2009年の68.2億人へまで2.2倍増（同じく1.7%）に留まり、供給過剰の継続で穀物の価格は低迷し続けてきた。それでも生産が継続・拡大されたのは、米国・EU等先進国での手厚い農業保護政策により生産者の所得が保証されて



（次ページへ続く）

(前ページより続く)

きたことが背景にある。状況が変わったのは2008年、新たにエタノール用トウモロコシの需要が加わり穀物価格の高騰を招いた。人口増にエタノール用もあいまって穀物需要拡大は続くため、一部の地域で穀物不足が懸念されている。特に人口増著しいアフリカ、中東、インド、また飼料用需要の高まっている中国等がそれに該当する。

主食の過度の輸入依存はリスクが高い。途上国では小麦やパン価格高騰がきっかけで政情不安から政変まで起きており、基本的食糧の自給率を高める必要に迫られている。小麦輸入の多いアフリカやインドでは肥料投入で食糧増産は十分可能。またブラジルのセラードエリア、アルゼンチン、ロシア、ウクライナ等は灌漑の整備等で増産の余地があり、実際ブラジルセラードの一部地域では日本の技術が活用。ただ肥料は今後も需要は拡大するので長期的に価格上昇が続く予想される。

農業は先進国ほど競争力が強い。日本の農業の強みは何か。優良品種の開発能力/栽培技術/機械力、インフラの整備/灌漑等ハード面、また流通システムなどソフト、手厚いサポート、マーケットパワーである。そして、環境/田園風景/地域文化の維持等、農村・農民・農産物のイメージが良い。更に農産物は高品質で高安全性、ただし価格はまだ高い。コメ(ジャポニカ)については栽培可能な地域が世界の中でも限定されているが、マーケットはアジアから各国に広がっており国際市況も高い。日本品もコストダウンを実現すれば、将来は輸出のチャンスが広がると考える。

記念講演 「ピンチをチャンスに (がんばれ! 日本農業)」

前宮崎県知事 東国原英夫氏

東国原氏による記念講演では、自らの経験をもとに楽しくお話し頂き、笑いの絶えない講演となった。人々を幸せにする仕事として、政治家とお笑い芸人が小学生の頃からの夢だったこと。北野たけしさんに弟子入りし、その後数々の経験を経て宮崎県知事選出馬にチャレンジした人生。知事時代も行財政改革、鳥インフルエンザ、口蹄疫等もあったが、職員・県民と一丸となってがんばった。このリーダーの本気度が県民を惹きつけ(県民支持率96%)ピンチをチャンスに変えることができた、といった笑いの中にも多くの示唆に富んだ話をお聞かせ頂いた。



総会V-2014の事業計画 「食と農の架け橋」 Ver. 3

当社取締役社長 三宅誠二

この10年、農家戸数減少は続いているが、専業農家の比率或いは農業生産法人は増加しており、1戸当たりの耕作面積も徐々に拡大。いまや存在感の高まっているプロの生産者がわれわれ肥料商のお客様の主流となってきた。コスト意識が高く栽培に関する知見も豊富なこのような方々からの要望に少しでもお応えすべく、賛助会員メーカーのご支援もいただきながら、会員の皆様と一緒にまずはわれわれ肥料商がその原点とも言うべき技術サービス力の拡充を図ることが大事。肥料販売を通じて収量増・品質向上・省力といった生産段階でのニーズに対応していきたい。またJGAP等でのお手伝い、更には地方活性化の観点も踏まえ、農業現場で具体的な案件がでてくれば、会員の皆様と検討を進める。肥料拡販にも繋がる現場での支援を会員の皆様、賛助会員メーカーと連携して行い、アグリサービスの充実を図っていく。

3年に一度開催される菱肥会総会ですが、今回は阮(ルワン)さん、東国原さんにご講演をお願い致しました。残念ながら一緒に写真を撮る事は叶いませんでしたが、ユーモアを交えながらも大変有意義なお話をお聞きする事ができました。有難うございました。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>